

ラムサール条約湿地登録

「渡良瀬遊水地」 × 協働



小山市の概要

■ 栃木県第2の都市

・166,398人(2015.11.1現在)

■ 豊かな自然

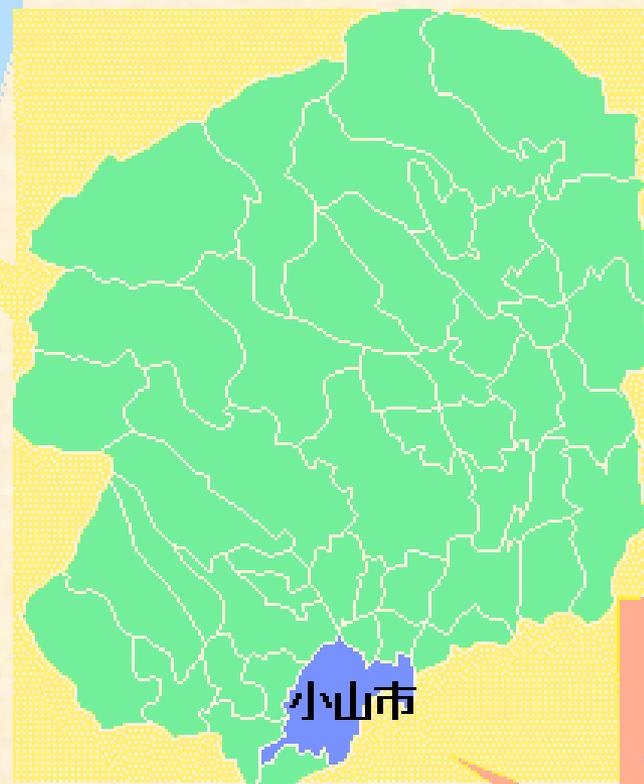
渡良瀬遊水地

■ 文化と歴史

・本場結城紬
・小山評定

■ 立地利便性

・東京圏から60km
・東北新幹線 東京駅から42分
・国道、鉄道が交差する北関東の交通の要衝



日本最大の遊水地 「渡良瀬遊水地」



4県 4市 2町にわたがる面積約3,300haの国内最大の遊水地。渡良瀬川・思川・巴波川の3河川の洪水を、3つの調節池でため込み、下流の利根川に影響を与えないようにする。



出水時の第2調節池 (2015年9月10日)

「平成27年9月関東・東北豪雨」
洪水調節機能を発揮し、東京ドーム約70杯分の水 (約
8,600万 m^3) を貯留



平常時の第2調節池 (2015年9月7日)



絶滅危惧種183種を含む
約3,000種の動植物が集う
渡良瀬遊水地は**生物多様性**の宝庫



トネハナヤスリ
(絶滅危惧種Ⅱ類)



チュウヒ
(絶滅危惧種ⅠB類)

平成24年7月3日 ラムサール条約湿地登録

釧路湿原に次ぐ
国内第2位の広さを有するヨシ原

ラムサール条約の目的

保全

Conservation

賢明な
利用

Wise use

対話・教育・参加・啓発活動

Communication, Education, Participation, Awareness

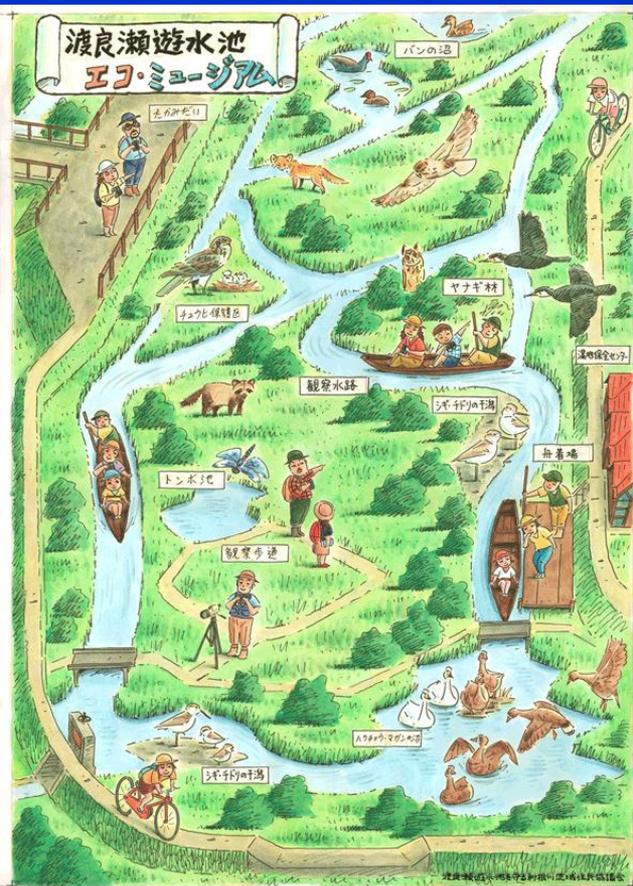
CEPA

協働事業 1 将来に向けた保全 多様な主体（行政、市民団体、市民）

- 人の手が入った湿地の維持管理（里山的管理）
- 多様な主体の参画による維持管理体制の整備



住民の思いが、国・地方自治体の計画に反映



渡良瀬遊水池を守る
利根川流域住民協議会
エコミュージアムプラン
(平成11年2月策定)



国土交通省
利根川上流河川事務所
渡良瀬遊水池湿地保全・再生
基本計画
(平成22年3月策定)



小山市
渡良瀬遊水池第2調節池
エコミュージアム基本計画
(平成27年3月策定)

協働事業 1 将来に向けた保全 多様な主体（行政、市民団体、市民）

＜今後の課題＞

- 外来種除去活動の継続
- 周辺自治体との連携

＜これからの展望＞

- 湿地の里親制度（関連企業）
- 共通の目標を定めて事業を展開していくことによる一体感の醸成（日本遺産 等）

協働事業 2 エコミュージアムに向けて 国内外からの訪問者と小山市（行政）

- ・生きもの再生調査
- ・体験・観察プログラムの開発
（Eボート体験、ミニヨシズづくり）
- ・エコツアーの開発
- ・適正な利用に関するルールづくり など



協働事業 2 エコミュージアムに向けて 国内外からの訪問者と小山市（行政）

<今後の課題>

- ・2次交通の整備（最寄駅から徒歩では遠い。。）
- ・認知度の向上、観光客の増加

<これからの展望>

- ・地方創生関連交付金 活用（地域間連携）
- ・都内でのPR活動
- ・シンガポールとの交流強化

協働事業 3 地場産業の推進① 農業振

興 者

「ふゆみずたんぼ」農家と酒蔵、小売業



農薬や化学肥料は使用しない

H 2 4 年度 H 2

7 年度

実施者数： 9軒 ⇒ 11軒

面積： 4.5 h a ⇒





平成27年5月10日 小山市水田にコウノトリが飛来

「ふゆみずたんぼ」農家と酒蔵、小売業者
＜今後の課題＞

- ・協力農家の増加、ふゆみずたんぼ面積拡大

＜これからの展望＞

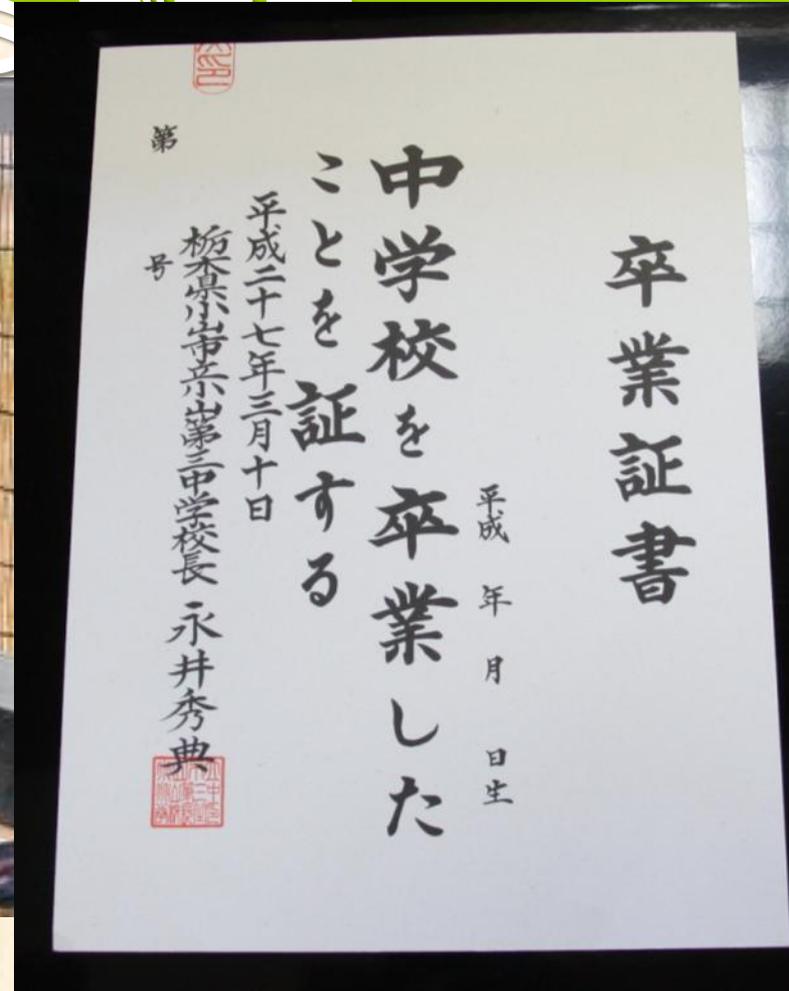
- ・販路拡大に向けた消費の確保
オーナー制度導入
首都圏学校法人での利用

協働事業 4 地場産業の推進②ヨシの活用

市内小・中学校とヨシ



市内全小・中学校38校へのヨシズ設置



ヨシ紙を使った卒業証書

市内小・中学校とヨシズ農家

<今後の課題>

- ・渡良瀬遊水地についての知識、郷愁の醸成

<これからの展望>

- ・現地学習を全小中学生に体験
- ・体験の成果として作文コンクール実施、表彰

新たな息吹を吹き込む春の風物詩

「ヨシ焼き」



渡良瀬遊水地、一度、お越してください。

GEOC に期待すること

適切な時に
適切な相手を
引き合わせることに

小久保 智史

(栃木県小山市役所 総合政策部 渡良瀬遊水地ラムサール推進
課)

(事業構想大学院大学 事業構想研究所 プロジェクト研究員)



栃木県出身。立教大学経済学部卒。大学卒業後、東京での公務員生活を経て、平成19年4月、小山市役所入庁。環境、企画部門を経て、平成25年から2年間、環境省自然環境局にて環境専門員として、生物多様性関連業務に従事。平成27年4月から現職。同8月からは、業務の傍ら、事業構想大学院大学・エコミュージアム地方創生プロジェクト研究の研究員として、ラムサール条約湿地登録「渡良瀬遊水地」関連振興事業の構想を練っている。